

2007
8・9
合併号
NO.281

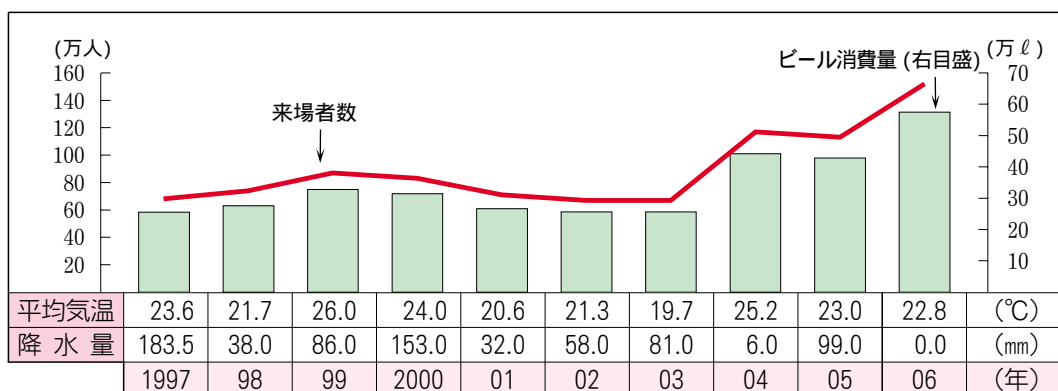
調査ニュース

今月の注目点

ビアガーデンの季節到来、天気は景気を制す？

今年も道内各所で例年恒例のビアガーデンが開催される。さっぽろ夏まつり・大通ビアガーデン（札幌大通公園）における来場者数・ビール消費量は、消費者のふところ具合よりも、気温や降水量に大きく左右され、特に、高温や少雨が目立つ04年以降の伸びが顕著だ。6月以降の平均気温は平年比概ね高めに推移しており、先行き増加が見込まれる観光客を含め、今年（7/20～8/10）も賑わいが期待される。ビール消費量を押し上げる好天が、道民の消費マインドをちょっと“太っ腹”にしてくれそうだ。

札幌・大通ビアガーデンの来場者数、ビール消費量の推移



(資料) 札幌市、札幌管区気象台

※平均気温は、7月下旬～8月上旬の平均。降水量は、7月下旬～8月上旬の累計。

- 最近の道内産業経済動向 1
 - 来道者数は足元で弱含み、夏場以降は挽回が見込まれる 2
- 道内ユニーク企業紹介 シリーズ⑧ 3
 - 消費者利益を第一に、地域内の連携で安全・安心の肉牛生産に取り組む
 - ～ 農業生産法人 (有)オークリーフ牧場 ～
 - ～ 農業生産法人 (有)大野ファーム ～
- 環境と北海道経済 シリーズ② 6
 - 廃油・廃プラから、高品質の再生油を生成
 - ～ 道内環境関連装置メーカー・丸大和光㈱ ～
- 地域だより 7



最近の道内産業経済動向

道外需要関連の生産・設備投資等は底堅く推移しているものの、公共投資の減少持続に加え住宅着工、道外からの観光客等が弱含んでいる。道内経済は、緩やかな持ち直し基調の中、やや足踏み感がみられる。

●個人消費は低調

5月の大型小売店販売（既存店）は、前年比▲1.7%と7カ月連続で前年割れ。一部百貨店で創業記念のセール効果がみられたものの、気温の低め推移（中旬以降）等による夏物衣料品や身の回り品のマイナスが全体を下押しした。なお、6月は気温が高めに推移したことに加え、夏物セールの前倒し効果等から、総じて衣料品がプラスとなった模様。乗用車販売（5月）は、普通車が3カ月連続プラスとなったものの、全体では13カ月連続で前年割れ。

●道内投資は住宅着工が弱含み、設備投資は底堅い

住宅着工戸数（5月）は、持家、貸家、分譲住宅が揃って前年を下回り、全体では前年比▲32.4%（4-5月累計：同▲1.1%）。民間設備投資は、地域別にまだ模様の中、大手を中心に、製造業（一般機械、自動車部品など）で能力増強に向けた動きがみられるほか、非製造業（物流、小売など）でも前向きの動きがみられる。ただし、4月の民間建築物着工床面積（非居住用）は、3カ月連続で減少。公共工事請負額（5月）は同▲13.5%と減少基調で推移しており、6月もマイナスとなった模様。

●製造業生産は概ね横ばい

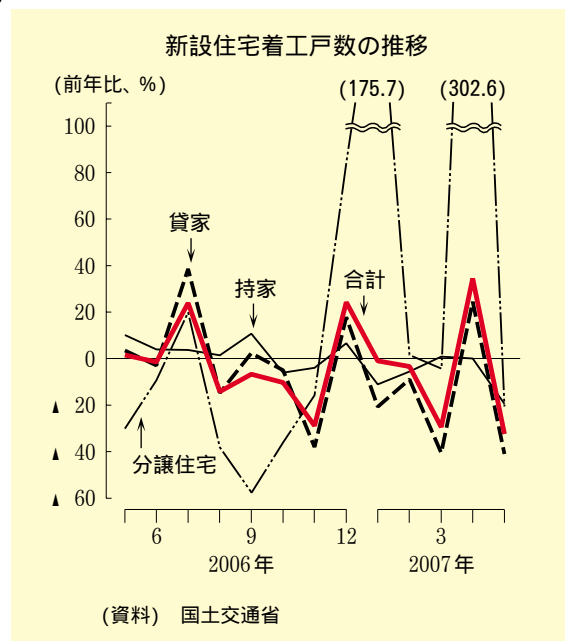
5月の鉱工業生産指数（季調済）は、前月比▲1.9%と3カ月連続で低下。輸送機械（トラック向け車体）や鉄鋼（自動車向け特殊鋼棒鋼）などが道外需要増を背景に上昇したものの、石油製品（定期修理に伴う稼働率低下）、金属製品（通信向け鉄塔需要一服、建築向け鉄骨の受注減等）などが低下となった。なお、前年比（原指数）では8カ月連続で上昇も上昇幅（0.2%）は横ばいの域に縮小。

●観光は来道者数がやや弱含み

5月の来道者数（除く海外からの直行便）は、前年（航空会社の新規参入に伴う他社を含めた運賃の引下げ効果）の反動や一部航空機の欠航等から、前年比▲6.9%と2カ月連続で前年を下回った。6月の航空機による来道者数は概ね前年並みとなった模様。なお、東アジアを中心とする海外客は引き続き増加。

●雇用情勢は概ね横ばい

5月の有効求人倍率は、0.48倍（常用・原数値）と7カ月ぶりに前年を上回った（0.01ポイント改善）。前月比では0.06ポイント改善（0.56倍、全数・季調済）。なお、月間有効求人数（前年比）は減少傾向。

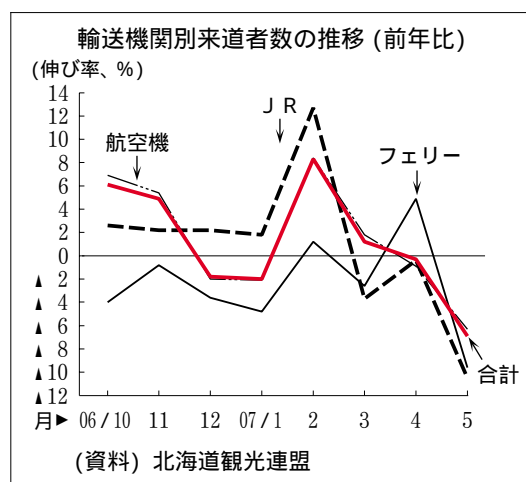
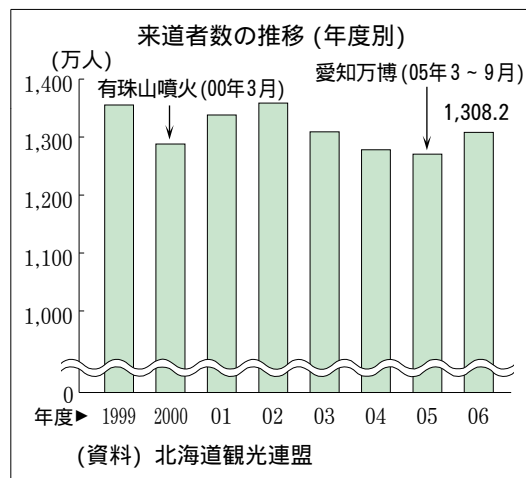


□ 来道者数は足元で弱含み、夏場以降は挽回が見込まれる

5月の「来道者数」（北海道観光連盟まとめ、除く海外からの直行便）は、ウェートの高い航空機利用客（輸送機関別で全体の8割強）の減少により、4月から2ヵ月連続で前年を下回った。低価格運賃による航空会社新規参入（前年4月、新千歳 - 羽田線）を背景とした、他社を含めた運賃引下げ効果の反動に加え、システム障害や機体整備遅れによる運休（5月）等が相次いだためとみられる。

6月は概ね前年並みの推移が見込まれるものの、先行きは、団塊世代の退職記念旅行増や、「北海道洞爺湖サミット」開催決定（来年7月）による注目度上昇等を背景に、本道への旅行需要は前年を上回ると予想される。

なお、「来道者数」には含まれていない海外客（直行便利用）は増勢持続。外国人入国者数ベース（札幌入国管理局、概数）でみると、春節の後ズレ（前年：1月、今年：2月）から1月が前年を下回ったものの、1～5月累計では17万人弱と前年を1割程度上回って推移している。



北海道の主要経済指標

（前年比伸び率、%）

年度・四半期・月	04	05	06	06/7 - 9	10 - 12	07/1 - 3	3	4	5
大型小売店販売額	▲ 4.8	▲ 3.0	▲ 1.6	▲ 1.0	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 2.0	▲ 3.3	▲ 1.7
うち百貨店	▲ 4.8	▲ 1.8	▲ 2.6	▲ 1.0	▲ 3.4	▲ 2.9	▲ 3.9	▲ 6.1	▲ 2.6
うちスーパー	▲ 4.8	▲ 3.7	▲ 1.1	▲ 1.1	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 1.9	▲ 1.3
乗用車販売（含む軽）	▲ 2.2	▲ 1.2	▲ 5.8	▲ 4.2	▲ 4.8	▲ 8.6	▲ 8.8	▲ 6.4	▲ 5.9
うち軽乗用車販売	▲ 2.3	5.1	9.4	13.5	10.2	3.0	3.3	▲ 2.9	▲ 2.5
新設住宅着工戸数	▲ 5.1	10.2	▲ 5.8	▲ 0.2	▲ 10.0	▲ 15.7	▲ 29.4	34.5	▲ 32.4
うち持家	▲ 4.3	▲ 4.8	2.6	5.1	▲ 2.3	▲ 4.0	0.9	0.1	▲ 19.5
うち貸家	▲ 8.8	22.7	▲ 7.4	6.3	▲ 13.5	▲ 28.5	▲ 40.5	24.5	▲ 41.0
うち分譲	9.8	▲ 4.8	▲ 13.2	▲ 32.5	▲ 7.0	18.4	▲ 4.3	302.6	▲ 20.6
前払保証工事請負額	▲ 7.0	▲ 4.7	▲ 10.1	▲ 8.6	▲ 19.6	12.3	17.9	▲ 6.5	▲ 13.5
民間建築物着工床面積（非居住用）	13.8	▲ 20.0	12.6	30.2	16.4	▲ 23.2	▲ 1.2	▲ 30.1	-
鉱工業生産指数	0.2	▲ 3.5	3.1	2.4	3.6	2.5	1.5	1.1	0.2
来道者数	▲ 2.4	▲ 0.6	3.0	2.8	3.3	2.4	1.2	▲ 0.3	▲ 6.9
外国人入国者数	54.4	22.3	12.1	11.8	6.5	14.4	29.4	13.4	3.9
有効求人倍率・常用（倍）	0.50	0.53	0.53	0.55	0.55	0.54	0.54	0.47	0.48

（資料）各種公表資料、ヒアリングによる

消費者利益を第一に、地域内の連携で安全・安心の肉牛生産に取り組む

BSE問題の発生や様々な表示偽装の発覚などを背景に、食の安心・安全に対する消費者の関心が急速に高まっている。こうした中、一次製品の生産者側では、出荷先や消費者の信用・信頼を高めるための様々な動きがみられる。今回は、与える餌の安全性や生産履歴の透明性にこだわり、地域内での連携により健康で安心な肉牛生産に取り組む、芽室町の農業生産法人、(有)オークリーフ牧場と(有)大野ファームの2社を紹介する。

～ 農業生産法人 (有)オークリーフ牧場 ～

「抗生物質無添加」の徹底に加え、詳細な生産履歴を独自に公開

当社は、肉用牛の哺育育成（素牛生産）^{もとうし}牧場。2,600頭の飼養規模（85％がホルスタイン、15％がF1・交雑種）を有し、素牛の年間出荷頭数は約3,800頭に上る。全頭が町内の肥育牧場向けであり、約半数にあたる1,800頭が(有)大野ファーム、1,000頭が関連会社・(有)HAオークリーフファーム（肥育部門として2004年設立）に供給されている。徹底してこだわっているのが餌の安全性だ。子牛仕入れ後に約1カ月間与えるミルクも含め、抗生物質無添加、かつ、NON-GMO（非遺伝子組換え）の原料を使用した飼料を、1993年以降段階的に導入。当時、製造されていなかった、生後4カ月未満の子牛向けの抗生物質無添加飼料についても、メーカーとの交渉を重ね、2年がかりで特注による調達実現にこぎつけた。また、生産者主導で透明性の高いトレーサビリティを確立している点も大きな特徴だ。国内で生まれた牛は、全頭に「個体識別番号」（耳に黄色いタグ）が付けられ、畜産関連団体のホームページ上で、個々の生産履歴を検索することができる（情報項目が限定されているケースが多い）。これに加え当社では、与えた飼料や投薬履歴など、より詳細な情報を独自に公開している（当社ホームページ上で検索可能）。

「安全」は「コスト」に優先

多頭飼育する上で、抗生物質を含む飼料の使用は、罹患割合が低下するなど効率面でのメリットが大きい。一方、抗生物質を含まない場合は、健康管理面やコスト面でデメリットになる。実際、当社では、後者飼料の導入に伴い、年間で

約2千万円に上るコストアップ要因になったが、「安全はコストに代えられない」という柏葉社長の強い信念は、決して揺らぐことがなかった。

ファームイン事業をきっかけに、効率追求から消費者重視の安全性追求へ

柏葉社長が家業を継いで就農したのは1975年。実は、当初は効率・利益を第一に追求し、抗生物質を含む配合飼料を使用していたが、ファームインのためのログハウス建設（1994年）が大きな転機になったという。宿泊客である消費者



清潔でゆったりとした牛舎
（オークリーフ牧場）

と直に会話する機会が増えたことに伴い、消費者が農業に求めているものを肌で感じ、それまでのやり方に大きな疑問を抱くようになったのだ。そして、「農業人として、消費者の利益になることは何か」と考えた結論が、「健康に育てた安全性の高い牛を消費者に届けること」だった。以降、経営方針を大きく転換。哺育育成・肥育のそれぞれの段階で安全性にこだわった牛を育てることは、消費者の利益につながり、また、肉に付加価値がつくことで、結果的に利益として生産者に還元されることを実感してきた。こうした中、2001年のBSE問題発生は、自分の方向性が正しかったことを再確認でき、安全性への思いをさらに強固にした大きな出来事であった。「安心・安全な農畜産物の提供こそが“農業者”の使命」。と柏葉社長は熱く語る。

歴史的建造物を生かした地域活性化にも取り組む
現在、地元農家ら数人とともに、町民に親しまれている歴史的建造物を利用したレストランも計画中だ。移転により空き施設となる「レン

ガ造り倉庫（JA所有）」を有効活用し、まちの活性化を図りたい」という思いからだ。牛肉や野菜など地場産食材を使った料理の提供を想定しており、来春のオープンを目指し、関係者とも調整を進めている。

【会社概要】

本 社	河西郡芽室町平和西15線50 ☎ 0155 - 62 - 3472 Fax 0155 - 62 - 0850
設 立	1994年 6 月
資本金	1,000万円
代表者	柏葉 晴良
従業員	16人（パート含む）
事業内容	素牛の育成販売、養鶏及び鶏卵の 生産販売、その他附帯事業
関連会社	(有)HAオークリーフファーム（肉牛の肥育）
URL	http://www.oakleaf.jp/

～ 農業生産法人 (有)大野ファーム ～

素牛はオークリーフ牧場から調達

当社は肉牛の肥育牧場。調達した素牛を2歳程度まで肥育した後に、農産物商社向けに出荷（販売）している。飼養規模は約2,000頭で、うち7割がホルスタイン、3割がF1（交雑種）。元々は畑作主体の農家だったが、肉用牛の肥育は1984年頃からスタートし、大野社長就農の3年後（1989年）頃から本格的に取り組むようになった。現在では売上げの約9割を肉牛が占める。当社が調達しているのは、殆どがオークリーフ牧場で哺育育成された素牛（生後7～8カ月）だ。

地域内循環農業を実践、良質な土づくりにも注力

当社では、堆肥を自家草地や畑に撒き、余剰堆肥は近隣麦作農家の麦わらと交換するなど、畑作を主体にしていた先代から「地域内資源循環」を継続して実践している。肉牛肥育にあたってその考えを貫いたものであり、加えて、柏葉社長の経営理念に賛同できたことも調達元決定の大きな要因となった。オークリーフ牧場からリレーされた健康な素牛に与える粗飼料には、

干牧草、麦わら（不足分は地元調達）を利用。配合飼料は引き続き安全性に配慮され、NON-GMO（非遺伝子組換え）、かつ、ポストハーベスト（収穫後農薬）のない原料が使用されている。また、牧草等の質を高めるために、適正な施肥・ミネラル分を補ってのバランス調整など良質な土づくりにも注力。これは、大野社長が研修先のオーストラリア（1989年に半年間滞在）で、ある農業コンサルタントに出会ったことをきっかけに、土がいかに重要かを実感したからだ。帰国後、土づくりの研究グループ「SRU（ソイル・リサーチ・ユニオン）」の立上げ（1991年）に関わった以降も、「科学的な土壌分析により土を健康な状態にする考え方」に基づいた実践を継続している。

出荷牛の肉は独自ブランドで道内外に流通

当社で肥育する牛は、1頭毎に投薬・治療履歴が管理されており、必要に応じてその内容を公開。また、オークリーフ牧場と同様に、投薬情報等を含む詳細な飼育履歴は自社ホームペー

ジ上で検索可能となっている。こうした消費者の安心・信頼を最優先した取組みにより、当社出荷牛の肉は、「未来めむろうし」「みらい牛」の独自ブランドを冠して、道内（Ａコープ道東、道北ラルズ、ポスフル等）のほか、遠くは四国の大手スーパーでも販売されており、需要は順調な伸びを見せている。

当面の目標は「穀物類など飼料の自家調達率をさらに高めること」、と大野社長。“顔の見える”肉牛肥育を貫き、安全性と透明性を追求する姿勢に揺るぎはない。



食欲旺盛な肥育牛
(大野ファーム)

【会社概要】

本 社 河西郡芽室町祥栄北 8 - 23
 ☎ 0155 - 62 - 4159
 Fax 0155 - 62 - 6068
 設 立 1986年 7 月
 資本金 500万円
 代表者 大野 泰裕
 従業員 8 人 (パート含む)
 事業内容 肉牛の肥育販売、農作物の生産販売、
 その他附帯事業
 U R L <http://www.oonofarm.jp/>

「未来日記プロジェクト」と「T A C S」

オークリーフ牧場と大野ファームは、牧場同士の連携を通し、安全・安心の浸透と地域振興にも注力中だ。例えば、「未来日記プロジェクト」への参加。これは、「消費者の健康を第一に、健康な牛の安心できる牛肉を消費者に届ける」という理念に賛同した牧場同士が連携し、広く外に向かってアピールすべく、2002年に立ち上げられたもの。ホームページも開設されており、メンバーの経歴紹介のほか、子牛 4 頭について、哺育育成（オークリーフ牧場）から肥育・出荷（大野ファーム）までの、約 1 年半にわたる実際の成長過程・情報が詳細に紹介されている。また、両社は、これまでに蓄積した経営ノウハウの共有を図り、地域の産業振興に寄与することを目的に設立（04年 3 月）された「T A C S（十勝農業法人組織。十勝地域に点在する 9 農業生産法人のオーナーを中心に 10 数人で構成）」のメンバーにもなっており、経営形態の枠を越えた連携にも積極的に取り組んでいる。

地域内の連携を通し、安全・安心な牛肉の安定供給に注力する両社。こうした共通の理念を持って肉牛生産に取り組む姿勢の輪が、今後さらに広がっていくことを期待したい。

(参考) 上記 2 社における肉牛生産の流れ

酪農家	オークリーフ牧場	大野ファーム	商社等（と畜）	店頭
繁殖（子牛誕生）	哺育育成（→素牛）	肥育	出荷	流通
（誕生～生後 1 ヶ月未満）	（～ 7、8 ヶ月）	（～ 2 歳前後）		

(黒瀧 隆司)

廃油・廃プラから、高品質の再生油を生成

～ 道内環境関連装置メーカー・丸大和光㈱ ～

環境をビジネスの観点からみると、道内の市場規模は2000年実績で2兆円強、全国シェアは4.2%（北海道経済産業局試算）。環境ビジネスの中身は、建築リフォーム、中古品流通、廃棄物処理等が大半を占めており、製造分野が少ないのが道内の特徴。特に、「環境関連装置製造」では、160億円、全国の0.9%（00年）にとどまる。しかし、最近では道内でも環境に関する機器や装置の製造を手掛ける企業が増加してきた。今回は、道内環境関連装置メーカーの中から、自社開発の廃油利用ストーブや廃油・廃プラ油化還元装置などが好評を得ている丸大和光㈱について紹介する。

丸大和光㈱は、各種ポリエチレン袋の製造販売、紙製品や洗剤など日用雑貨品の販売、産業機械の開発を事業の3本柱としている。最近では中国製品との競合、原材料価格高騰などからポリ袋事業が低迷していることもあり、徐々に環境関連機器・装置の製造分野に力点を移してきた。これまでに手がけたのは廃油ろ過装置、災害用移動給水システムなど。各種機器・装置や試作機の受注生産を基本としているが、昨年販売を開始した廃油利用ストーブのようにヒット商品も出ている。また、高品質の再生油を安定的に生成可能な廃油・廃プラ油化還元装置を開発、今後の販売に力を入れる構えだ。

コスト減とクリーン度で人気の廃油ストーブ

独自の工夫を盛り込み、開発した廃油ガス化燃焼ストーブ「北の炎渦」は、昨年10月に販売開始後、全国で累計100台以上を販売した。好評となった要因には、自社内廃油利用によるコスト削減効果（年間25万円程度）が大きい、

CO/CO₂濃度（排ガス中の二酸化炭素に対する一酸化炭素の割合）が、石油ストーブのJIS規格（0.002%）に対し0.0000149%（工業試験場の計測）と大幅に低く、「排ガスクリーン度」が高いことなどが挙げられる。クリーン度の高さは、廃油をガス化し、強制的にストーブ内で循環させ、完全燃焼に限りなく近く燃焼させる点に独自の工夫（特許出願中）を盛り込み実現させた。自社製ビニールハウスの暖房用燃料として廃油を利用、燃焼方法を改善してきたことが、新製品開発につながった形。ユーザーは自社内で廃油が多く発生する製造業や農業を始め多様な業種に広がっている。燃焼効率の良さから有害物質（CO、NO_xなど）の発生を抑制するという点で環境保全への貢献度も高く、今後一層評価が高まりそうだ。

小型・高性能な廃油・廃プラ油化装置を開発

今、最も力を入れようとしているのは、自社開発した廃油・廃プラスチック油化還元装置の販売。この装置は、廃油・廃プラを加熱してガス化し、触媒と接触させ、高品質の再生油（ガソリン、軽・灯油、重油相当）を生成する仕組み。こうした油化装置は、廃油・廃プラ焼却処理コスト、燃料コスト両面の削減につながるため、廃油・廃プラの大量排出企業や自治体等を中心に、需要が拡大中。特に、安価で処理効率の高い小型装置が望まれていたものだ。

当社製品は、加熱式連続投入装置や攪拌装置等の採用により処理効率が高い、石油精製技術専門家（当社顧問）のノウハウを活用し、触媒に高品質再生油の生成が可能なシリカアルミナ系を採用、顧客の処理量に応じた規模の装置を生産、などの特徴を持ち、大手メーカー製大型装置との差別化が図られている。将来的には、漁網、浮きなど各種プラスチック製品の廃棄が問題化している漁場での利用が有望とみられているほか、台湾からも引き合いがあるなど、国内外からの関心が高まっている。



丸大和光社製の廃油・廃プラ油化還元装置
（連続式TM-50R）

（松本 則栄）

地域だより

◎「地域団体商標」に、5月以降追加された地域ブランドの一部を紹介します。

帯広市『^{たいしょう}大正メークイン』 『大正長いも』『大正だいこん』

道内初の複数登録。帯広大正農協（出願人）が管理する産物に使用できる。同農協は、食の安全・安心を基本理念に据え、自主的に残留農薬検査を実施。減農薬栽培・減化学肥料栽培、トレーサビリティ（生産履歴を追跡できる仕組み）等の確立に取り組む。道内農協別で生産量1位の「メークイン」は、粘りが多く荷崩れしにくい。「長いも」は、台湾や米国にも輸出されている。また、平成に入ってから栽培が始まった「だいこん」の生産量は、全道2位。（H19年5月登録査定、6月正式登録）



苫小牧市『苫小牧産ほっき貝』



苫小牧市の「ほっき貝（正式名称ウバガイ）」水揚げ量は日本一（H17年、829 t）。苫小牧漁協（出願人）の取り決めにより、直径9 cm以上（北海道の規則では7.5 cm以上）の良質なほっき貝のみ出荷。肉厚で、重さは通常の約2倍。甘みを含んだ旨みが特徴。貝の産卵期（5～6月）は禁漁とし、組合員一人あたりの漁獲量も制限する。漁法は貝を傷付けないよう「噴流式ケタ網（高圧水流で砂を飛ばし掘り返す）」を採用。H14年には「苫小牧市の貝」に制定。（H19年6月登録査定）

※平成19年6月末時点の道内登録査定済み件数は9件（上記4件に加え、十勝川西長いも、鶴川ししゃも、豊浦いちご、はほまい昆布しょうゆ、幌加内そば）。

調査ニュース

編集・発行

北海道銀行

道銀地域企業経営研究所 経済調査室

〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目

☎（直通） 011-233-1032 内容照会先 黒瀬

北海道銀行ホームページ <http://www.hokkaidobank.co.jp/>